

式 辞

平成29年度
入学式

利根川の流れの水もゆるみ、今将に、桜花爛漫と咲き誇るこの良き日に、前橋市市議会議長・金井清一様を始め、多数のご来賓のご臨席を賜り、ここに第55回入学式を挙行できますことは、本校にとってこの上ない喜びであり、心よりお礼申し上げます。ただいま名前を呼ばれました普通科508名、保育科105名 計613名の皆さんの入学を、在校生・教職員一同心から歓迎します。

さて、本校は1963年(昭和38年)に創設され、以来、厳しい時代の流れに翻弄されながらも、間違いなく充実発展の歴史を積み重ね、今年創立55年を迎える、県内でも屈指の伝統校であります。野球・サッカーの全国優勝をはじめとして、幾多の人材を輩出してきた歴史を持っています。その55ページ目に皆さんの名前が刻まれることに誇りと責任を感じて、高校生活を送って欲しいと思います。

前橋育英高校は、生徒の学びと進化(成長)にとって何が必要かを第一に考える『スチューデント・ファースト』の学校です。生徒一人ひとりの「学びたい」「変わりたい」「成長したい」といった気持ちをサポートし、実現に導くことを第一に考えている学校です。

この学びと進化(成長)は、新しい知識を得る事以上に自分自身を知るところにあるような気がします。学ぶことによって自分は何を知っているのか、今の自分には、何が足りないのか、といったことを感じることになります。だから学びをやめると正確に自分自身を理解することがむずかしくなります。悲しいかな、進化(成長)は一步一步の積み重ねですが、後退のスピードは速いものです。

現代フランス哲学研究者の内田 樹という人が、学ぶということについて、こう書いています。「知りません。教えて下さい。お願いします。学びという営みを構成しているのは、この3つのセンテンスに集約できます。自分の無知の自覚、先生を探り当てる力、礼儀正しさ。この三つが整っていれば、人は進化(成長)できる。一つでも欠けていれば進化(成長)できない。」と。

「知りません。教えて下さい。お願いします。」この簡潔な三つのセンテンスが大切です。高校の勉強とスポーツが中学校までと違うのは、学ぼうと思った者しか学力・スポーツの向上を獲得できないということです。勉強・スポーツは、作業ではありません。ただの丸暗記は通用しません。誰かに強制されて嫌々勉強・運動しても、本当の力は、付きません。「なぜ、どうして」という根源的な学びへの渴望からしか真の学力・スポーツの向上は獲得できません。まずは、自分が学ぶべき事を自覚して下さい。次に、自分の先生を捜して下さい。学校の先生は勿論として、クラスメイトであったり、先輩であったり、また学校の外の人であったりするでしょう。最後に、謙虚に「お願いします。」と頭を下げて下さい。本当に学ぼうと思ったときに、人は謙虚になります。謙虚になったとき、人は自然と礼儀正しくなるのです。

「知りません。教えて下さい。お願いします。」本日前橋育英高校に入学するに当たって、この言葉をどうぞ胸に刻んで下さい。

前橋育英高校は、この学びをサポートして成長に導く学校です。生徒と向き合い「やる気」を引き出し、無限の可能性を伸ばしていきます。夢をもって入学された生徒の育成に全力を挙げ教職員がひとつになって一人ひとりのもっている潜在能力にスイッチを入れていきます。

最後になりましたが、保護者の皆様一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学本当におめでとうございます。高校の三年間は、人生の方向を決定する大事な時期であり、悩み苦しみの最も大きい時期でもあります。そんな大切な三年間を前橋育英高校に預けて頂き感謝しております。私達教職員は、お子様が、自らの生きる道を、自らが切り開いていけるよう全力を尽くして参ります。

生徒第一主義『スチューデント・ファースト』の前橋育英高校で、楽しく満ち足りた高校生活を送られますことを心から期待して、式辞といたします。

平成 29 年 4 月 7 日

学校法人群馬育英学園 前橋育英高等学校

校長 山田 耕介